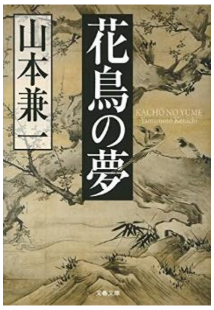
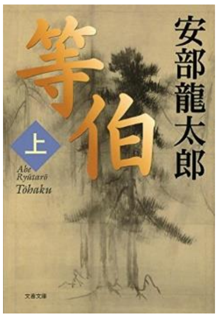
読書のすすめ

山本和彦（化学生命工学科）

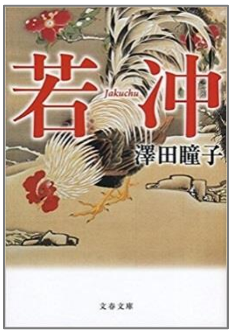


花鳥の夢 /
山本兼一著
文芸春秋, 2015



等伯　上 /
安部龍太郎著
文芸春秋, 2015

等伯　下 /
安部龍太郎著
文芸春秋, 2015



若冲 /
澤田瞳子著
文芸春秋, 2017

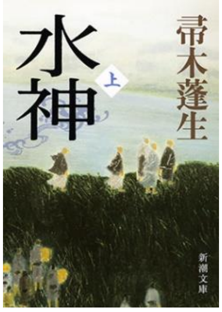
色々な趣味の中で、私にとって一番は読書かも知れません。空いた時間を埋める役目はもっぱら読書です。読むのは大抵文庫本です。新作作品は多くは単行本として出版されますが、サイズが大きく持ち運びに不便、それと、値段がお高いので読みたくても我慢をするときが多いです。電子書籍は読むというより見る感覚で、どうも話の世界に入り込めない様な気がして好きになれません。私は、乱読を薦めていますが、私が読むのはどちらかと言うと歴史や文化に関わる本が多く、目にとまった表題の本を手に取り、適当に半ページほど目を通し、読む気になった本を、大抵何冊か同時に購入します。テレビの対談や新聞のコラムなどで作者の話しに興味がわいたときに、その作者の著作を大人買いしたりもします。昨年、ノーベル賞をもらったカズオイシグロの本も何年か前にまとめて購入しましたが、4 冊目ぐらいで挫折しました。不真面目な読み方も時にはします。司馬遼太郎は好きな作家の一人ですが、資料に裏付けされた文章の文中の解説が長くそこを飛ばし読みすることも多いです。

今回、書籍の紹介でまず頭に浮かんだのが山本兼一、直木賞受賞作で映画にもなった「利休にたずねよ」の原作者ですが、残念なことに数年前に亡くなられ非常にがっかりしました。彼の作品は登場人物の性格描写や発する言葉に面白みを感じます。「花鳥の夢」は安土桃山時代の絵師狩野永徳を主人公とする作品です。狩野派は室町から江戸時代まで長く画壇に君臨した画派で、この作品では永徳が、近衛前久や織田信長、豊臣秀吉などが織りなす時代の奔流にもまれる様子が描かれていますが、最も、面白い点は長谷川等伯との確執で、天才と呼ばれた絵師の内面が浮かび上がってきます。等伯は近年、テレビや絵画展で紹介されるなど多くの人の関心が集まっていますが、その等伯を主人公にしたのが阿部龍太郎の「等伯」、この作品も直木賞を受賞しています。花鳥の夢とほぼ同時期の作品です。能登から出てきた無名の天才が、有名になっていく様子が非常にドラマティックに描かれており、併せて読むことを薦めます。澤田瞳子「若冲」も絵師を扱った小説で、江戸時代中期の絵師・伊藤若冲が主人公で絵師を取り巻く人間関係がこの作者らしくよく描かれています。この 3 人の作家の作品は全て、登場人物の性格やその背景の設定など面白く、読んでいて引き込まれます。信長や秀吉、利休がでてくる小説に鬼塚忠の「花戦さ」があります。絵師ではなく華道家を扱ったものです。主人公の池坊専好と利休の描き方が非常に良い作品でした。主人公以外の描き方を比べることも面白いです。ちなみに、お花の池坊はこの本を推奨しています。

少し毛色は違いますが帚木逢生の新田次郎文学賞受賞作「水神」は、江戸時代初期、島原の乱の後の時代の筑後川の治水工事の実話をもとにした小説で、当時の農民の苦しい生活がありありと表現され、改善に立ち上がる 5 人の地主が力強く描かれていて、これもおすすめの一冊です。

同じ作者や同じ題材の本を何冊かまとめて読むと、読書の楽しみが増して面白いと思います。

花戦さ / 鬼塚忠著
KADOKAWA,
2016



水神　上 /
帚木蓬生著
新潮社, 2012

水神　下 /
帚木蓬生著
新潮社, 2012